



令和6年度 6月の園だより

段原みみょう保育園

やりたいことがいっぱいの子どもたち

春から初夏へと移り変わる季節となりました。

気温が上がってくると園庭では、井戸水のポンプの周りに子どもたちが集まり、バケツやおなべに水を汲んで遊んでいます。

側でお兄ちゃんお姉ちゃんの様子をじっと見つめるうさぎ組さんは、お兄ちゃんたちがいなくなると、見よう見まねでお水を出そうと挑戦。身体よりも大きなポンプを一生懸命動かそうと試す姿や水が出た時の「みて、すごいでしょ。」といわんばかりの達成感を感じさせる満面の笑みは、とても愛らしくてたまりません。子どもたちはこんな風に、

毎日の生活の中で、興味あることを見つけては、自分で“やってみよう”と心動かしているのです。

段原みみょう保育園では、今年度も「自己肯定感を土台に自分で考え判断できる子に」をテーマに保育を進めています。これは、まず赤ちゃんの時から言いたいことややりたいことを、好きなだけさせてもらいながら自分の存在に自信をもつことが出発点になります。そのためには、赤ちゃんが求めているときに求めているだけ抱っこしたり、表情や視線、声など赤ちゃんが伝えようとする思いに側にいる大人が「うん。うん。そうなんだね」としっかり受け止め応えてもらう日々の積み重ねが大切になってきます。ご家庭において大好きなお父さんお母さんに「〇〇ちゃん大好きだよ」と愛情をいっぱい注いでもらい、たくさんのお話を聞いてもらっている子どもたち。だからこそ、子どもたちは、お父さん、お母さんという大好きな人との安心感を土台に園においても様々なことに興味を示し、園庭でのエピソードのような意欲溢れる姿を見せてくれています。そして、やりたいことにチャレンジする中で、考えたり、工夫したり、うまくいかない「なんでうまくいかないんだろう」「どうやったらいいんだろう」ととことん追求しているのです。このやりたいことを自分の力でやり遂げていく経験、そしてその中で感じる喜びや悔しさ、もどかしさなど様々な感情の芽生えが、これから子どもたちが将来をしたたかにたくましく生きていくための力の原点になっていきます。こうした姿一つひとつを私たちは大切に、日々子どもと関わる中で、子どもたちのやりたいがより発揮できるような好奇心くすぐるあそびや環境を常に考えたり、子どもたちの主体的な姿に対して、見守り、支えていきたいと思っています。

さて今月は、運動会があります。子どもたちは、大好きなご家族の方に見てもらうこと、そして一緒に競技や遊戯をすることを楽しみにしています。今年度は、全園児参加で行います。暑さが心配されますが、しっかり対策をとりながら、子どもたちはもちろん保護者の方にとっても楽しい一日になればと思っています。みなさんのご参加お待ちしております。



園長 岩槻 由紀